

フルカラーデジタル印刷機

Zeikon 8000

スピード
品質
稼働率

品質に厳しい流通業界のDMを6日間で600万ページ印刷するために、
「この3つの基準で満足させてくれたのがZeikon8000でした。」

パラジェット社 セールス・マーケティングマネージャー
ペル ラルソン氏談



Parajett AB (パラジェット) 社
<http://www.parajett.se>

1904年スウェーデンに設立した総合印刷会社。オフセット印刷、デジタル印刷を含むIT技術を駆使して、顧客毎に最適なコミュニケーションのためのソリューションを提供。

販売代理店

サカタインクス株式会社 事業開発推進本部

大阪本社 — 550-0002 大阪市西区江戸堀1-23-37
TEL05-6447-5874 FAX06-6447-5839

東京本社 — 112-0004 東京文京区後楽1-4-25(日教版ビル)
TEL03-5689-6674 FAX03-5689-6633

ホームページアドレス <http://www.inx.co.jp>



フォーム印刷

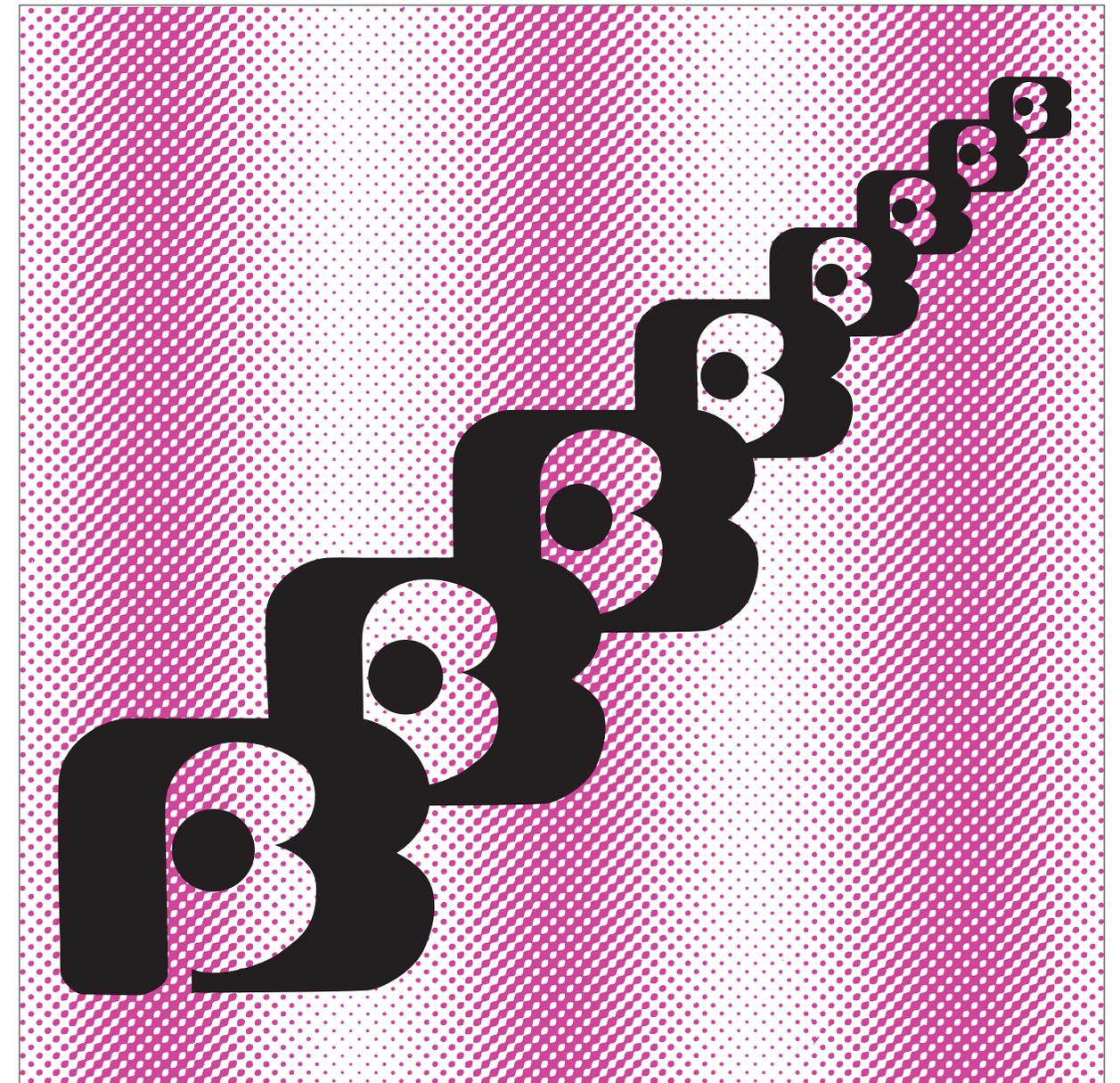


JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ <http://www.jbfa.jp>

NO. **362**



年頭所感	2
日本フォーム印刷工業連合会 会長 秋山 正法	
日本印刷産業連合会 会長 山口 政廣	
日本フォーム印刷工業連合会 副会長 小林 祥浩	
〃 副会長 小谷 達雄	
〃 副会長 瀬戸 良教	
日本フォーム工連 平成21年度第6回理事会議事要録	7
日本フォーム工連 平成21年度第7回理事会議事要録	9
トピックス	12
第2回特別企画セミナー「ポップアップDM・カード制作」を開催	
国際委員会・技術委員会合同セミナーを開催	
工業会だより	15
関東フォーム印刷工業会 役員研修会（独占禁止法について）を開催	
5支部合同講演会を開催	
中部フォーム印刷工業会 セミナー「ビジネスチャンスはどう見つけるか」	
関西フォーム印刷工業会 「環境セミナー」を開催	
INFORMATION	19
市場調査委員会	
2009年度版「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」を発行	
国際委員会 北米印刷事情レポート（2009年10月～12月）	
北京InfoTrendsセミナー基調講演レポート	
書籍案内「印刷産業のための個人情報保護の手引き」日本印刷産業連合会発刊	
ホームページ 2009年10月～12月掲載一覧	

Economy & Ecology
エコノミー & エコロジー



SCREEN

Truepress Jet520
フルカラーバリアブル
インクジェットプリンティングシステム

New
エントリーモデル

**導入コストを抑えた待望の
シリーズ機登場！！**

<特長>

- ◆ Truepress Jet520の品質機能を継承
- ◆ 高付加価値創出
- ◆ Eco設計による環境対応
- ◆ 業務内容に応じた前後処理装置の選択(OP)
- ◆ 全数・全面ビットマップ検査による品質保証(OP)
- ◆ 業務量に応じてバージョンアップ(OP)

●ダイレクトメール
圧着はがき(先糊、後ニス対応) etc...

●帳票関係
OCRドロップアウトカラー
薄紙/ノンカーボン用紙
保険証券・約款 etc...

●パーソナル出版・小ロット印刷
パーソナルカタログ・自費出版
新聞・フリーペーパー etc...

株式会社メディアテクノロジー ジャパン
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル
VP営業統轄部 VP営業部
TEL03(3237)3116 FAX03(3237)3203
ホームページhttp://www.mtjn.co.jp/

大日本スクリーン製造株式会社
メディア&プレジジョンテクノロジーカンパニー
〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目
ホームページhttp://www.screen.co.jp/

フォーム印刷用インキのトップシェア **FDフォームTF NC**

圧倒的な生産性を実現！！

安定した印刷品質 抜群の硬化スピード

高い乳化安定性とワイドな水幅 優れたUV硬化性

※話題の大豆油インキフォームFD TF SOY NCもご用意しました。

製品の詳しい情報はwww.toyoink.co.jp/
「製品・サービス」コーナーをご覧ください。

i&i 東洋インキ
イメージ&インターフェース
本社/東京都中央区京橋二丁目3-13 TEL 03(3272)5731
RC事業部/TEL 03(3272)8473

ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

FCリスコート H-17 BFシリーズ

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ☆UV・油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御 ☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい ☆耐水性の低い染料系インキ・減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制
--------	---

 <p>富士薬品工業株式会社 FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD HP URL http://www.fcfuji.co.jp</p>	<p>本 社 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10 TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205</p> <p>大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1 TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221</p>
---	--

年頭所感

「情報を密に業界の発展を！」

日本フォーム印刷工業連合会 会長

秋山正法

トッパン・フォームズ株式会社 取締役会長



新年明けましておめでとうございます。

旧年中は日本フォーム印刷工業連合会の事務運営に対して皆様より多大なご支援とご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

2009年は、日本経済が一昨年の世界的な金融危機の尾を引いたまま迎えた衆議院選挙で、民主党による政権交代という戦後の歴史の中でも画期的な変化が起りましたが、新政権によるマニフェストに沿った各政策の取り組みは、試行錯誤を繰り返しながら、着地点を見出せないまま新年を迎えました。

また、世界経済は欧米では最悪期を脱しつつあるとの観測も強まっていますが、我国の経済はデフレの進行や不安定な円相場で先行きの不透明感が強まっています。

フォーム印刷業界も引き続き諸資材の高値安定など、市場環境は相変わらず厳しい状況で推移しています。

一方、市場動向は、情報媒体のデジタル化の進展により、情報手段が多様化し、変化のスピードが早くなっています。いち早く、需要構造の変化を見極めながら、顧客の満足を追求していかねばなりません。これまでも、フォーム業界は「情報の器」であるビジネス・フォームを基盤として、情報加工技術や活用方法の向上を図りながら、事業領域を拡大してきましたが、情報化社会で果たす役割と責任は益々増大するものと思われまます。

このようななか、昨年は団体の活動としては、情報共有の一環として、企業の社会的責任（CSR）や、顧客満足度（CS）の向上などといった企業経営に関するテーマを中心とした講演会を定期的で開催するなど、会員相互の啓蒙促進などにも取り組んできました。

今後も各会員が自助努力により企業体質の強化に努めるのはもとより、会員相互間の活発な活動を通して、フォーム印刷業界の将来を見極めながら、情報を密にし、業界の発展を期していきたいと思ひます。

皆様のご支援、ご鞭撻をお願いするとともに、益々のご活躍とご発展を心より祈念いたしております。

年頭所感

社団法人 日本印刷産業連合会 会長

山口政廣



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様におかれましては、お健やかに良き新春をお迎えのことと存じます。

旧年中は、私ども日本印刷産業連合会に対し、格別のご高配を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、天皇陛下ご即位20年、第2回ワールドベースボールクラシックでの日本2連覇、大リーグでの日本選手の活躍などの喜ばしいニュースがありました。一方、中国、九州北部、近畿地方での記録的な集中豪雨や台風による人的災害の発生、景気悪化による所得減少、雇用不安等が続き国民にとって大変つらい一年でありました。また、政治におきましては、8月の衆議院選挙で民主党が圧勝し、歴史的な政権交代を成し遂げ鳩山連立内閣が発足しました。

さて、わが国の経済情勢は、一時は回復軌道に乗ったかに見えましたが、雇用環境は一段と厳しさを増し、設備投資も減少するなど景気の二番底も懸念され、加えてデフレの進行とドバイショックによる急激な円高・株安の状態となりました。そのため日本銀行では、12月初旬にデフレ克服のため量的金融緩和策として、10兆円の資金供給を決定しました。さらに、政府でも第2次補正予算に追加経済対策として、7兆2千億円が盛り込まれましたが、引き続き平成22年度の予算編成が注目されます。今年度の日本経済の見通しにつきましては、依然として先行きの不透明感が強く、政府における中長期な経済成長への道筋と、景気回復への実効ある経済対策や雇用対策が早急に求められております。

こうした状況のもと、加速する情報化の進展や社会構造の変革により印刷産業を取り巻く事業環境は大きく変動しており、これらに的確に対応することが肝要と考えます。そのため、当連合会が果たすべき役割をしっかりと認識するとともに、課題テーマを提起して積極的に諸事業を実施していく所存であります。ご指導、ご助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。本年の主な重点事項としては、政治主導に伴う情報収集と的確な行政対応、会員団体支援、さらにカーボンフットプリント・グリーン認定制度等環境保全の推進、認定事業（G P認定工場・Pマーク付与）の拡充を挙げ鋭意取り組んでまいります。

印刷産業におきましては、企業における広告宣伝費の削減や個人消費低迷による印刷需要の減少や諸資材の高止まりによる負担増、そして規制が強まる環境保全など厳しい状況がしばらく続くものと思われまます、会員団体・関連団体の皆様と英知と力を合わせ前進して行きたいと思ひます。何卒一層のご支援をお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆様のご多幸とご事業の益々のご繁栄をお祈り申し上げ、御挨拶といたします。

年頭所感

「新たな価値を創出」

日本フォーム印刷工業連合会 副会長

小林 祥 浩

小林クリエイティブ株式会社 取締役会長



新年あけましておめでとうございます。平成22年の新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

世界経済はリーマン・ショックから一年が経過し、各国政府の過去に例のない大型財政出動を伴う景気刺激策により、混乱から徐々に平静を取り戻し、今後は緩やかに回復基調を辿るものとみられます。

日本経済は政府経済対策や海外景気の回復を背景に最悪期は脱し、足元の経済指標は持ち直しの動きを続けているものの、これはあまりに大きく落ち込んでいた輸出企業の業績改善が牽引しての結果に過ぎません。依然として設備や雇用の過剰感は強く、国内需要の低迷やデフレ圧力、円高リスクなどから、内需までを含めた景気の自律的回復には相当の時間を要するものと思われまます。

内需への依存度が高いフォーム印刷業界においては、景気回復の実感乏しく、引き続き厳しい市場環境が続くことは明らかであります。我々はこの厳しい環境を乗り越えるために、今まで以上にお客様の課題解決パートナーとなり「新たな価値」を創出し、提供していかねければなりません。

昨年の日本漢字能力検定協会が毎年公募している一年の世相を表す漢字は「新」でした。これは民主党新政権誕生、新型インフルエンザ新薬登場、スポーツ各界での新記録、裁判員制度等新制度のスタートが理由としてあげられておりますが、それ以上に、閉塞感のある現在において「新しい変化」「新しい時代」に対する人々の期待や願望が込められた「新」であったと思います。そしてこれは今まさに全ての企業（お客様）が望んでいることでもあると思います。

グローバル化の本格的な進展は、経済環境の変化をより激しく、より複雑化していきます。そのような環境において自分達が変化しないことは、これからの時代、最大のリスクとなってきます。今を最善とは考えず、明日の最善を目指して常に新しい何かを求め、チャレンジし、変化し続けていかなければなりません。そういった積み重ねが我々の事業活動においてイノベーションを起し、「新たな価値」を創出する原動力となる筈です。また、そうすることでフォーム印刷業界が社会のニーズに答え続け、進化していけるものと信じています。

最後に会員の皆さまにおかれましては、一層のご支援、ご協力をお願いしますとともに、本年が皆さまにとって新たな価値を創出する飛躍の年となることを祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感

「新しい成長を目指して」

日本フォーム印刷工業連合会 副会長

小 谷 達 雄

株式会社イセトー 取締役社長



新年明けましておめでとうございます。

昨年から続く世界同時不況の影響を大きく受けたわが国の経済は、危機的な状況からは脱却しつつありますが、雇用情勢の悪化やデフレが進行するなど、まだまだ予断を許さない状況といえるでしょう。

また、環境面で見るとグローバル化の進展や少子高齢化・人口減少が進むことで、本来、社会全体が目指さなければならない姿が見えにくくなってきており、社会の競争力や行動力の低下を懸念する声が増しに強くなってきています。

その中、フォーム業界は、依然として厳しい環境におかれています。今、われわれに一番求められていることは企業継続の原動力となる「生産性の向上」ではないかと考えています。これまでも顧客ニーズに対応するため、最新ITの活用やノウハウの革新、作業者のスキルアップなどの企業努力を行ってきましたが、無益な価格競争や市場価格を無視したダンピングから、結果として低い伸びに止まっています。

このような状況の中で、継続的に「生産性の向上」を実現させるためには、成長が期待されるマーケットを具体化させていくとともに、企業の競争力強化に繋がる取り組みや社内インフラの全体最適・稼働率向上といった施策を実施することが必要と考えます。

今、われわれが最優先に行わなければならないのは、こうした施策を通じ、新しい成長に結びつけていくことではないでしょうか。フォーム業界が強いリーダーシップを持ち、皆さま方の理解を得ながら、大きな上昇基調の流れを作っていけるよう望んでおります。

本年が、フォーム業界の皆さまにとって今までにない飛躍の年となるようご活躍を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感

「新しい視点で魅力ある業界に」

日本フォーム印刷工業連合会 副会長

瀬戸良教

株式会社昇寿堂 代表取締役社長



明けましておめでとうございます。

ここ数年は新しい年を迎えても、前年の反省と来るべき将来展望に大きな悩みと不安を感じながらのいささかお目出たかない思いが続いてきました。今年はどうでしょう。

民主党政権になって政策運営も、野党時代とは打って変わって大変歯切れが悪くなってしまったように感じられます。折角大量当選した若い議員の皆さんには従来にない国民目線からの政治を期待されているはずなのですが、現状の報道等を見る限り旧来の政治権力者達の道具としてしか使われていないように思われます。

今年の参議院選挙を前にした社民・国民新党との連立政権も今年の衆院選結果を念頭に行ったものとは思えないほどに少数政党に振り回されている印象を強く受けます。確かに民主主義社会にあって少数意見を尊重することは大切なことですが、現在の政治状況は先の選挙における国民の期待とはかけ離れたもののように私には感じられます。

少数政党は連立政権に参加しても、選挙結果による国民の信託の割合というものを考慮しつつ多数政党の暴走に歯止めをかけるような立場であって欲しいものと思います。

ところで今年の業務委員会主催のセミナーでは、坂本先生の「日本でいちばん大切にしたい会社」、古田土公認会計士の「どうしたら良い会社になるか」、そして林田社長の「感動を呼ぶサービスの神髄」の講演がありました。この三回の講演は社員やその家族を思い、顧客のために何をしなければならないのか、真のサービスとはどこから生み出されるのかが共通したテーマでしたが、その根源は「思いやる心」であり「利他」であることを熱く語られていました。

現実の厳しい競争社会の中であって、事例を多く挙げての講演は将に感動的なものであり、講演後のアンケートでも若い皆さんをはじめ多くの方から好評をいただきました。

私事で恐縮ですが、社員のモラル向上や社会的使命についても改めて考え直す必要があると思われるセミナーでありました。「お客様を大切にしてください」とは言っても「社員を大切に」できたか「仕事する喜び」を与えられたか、講演で挙げられた具体的な事例を「非現実的」と考える自分があることを知らされました。「できない」は「やらない」の裏返しでもあります。

フォーム工連にあっても無意味な価格競争に陥ることなく、互いの技術や設備を利用し合うなど協力して顧客から今まで以上の満足と信頼をいただき、併せて適正な利潤をいただけるような工業会になればと願う新春であります。

日本フォーム印刷工業連合会 平成21年度 第6回(持ち回り)理事会議事要録

■平成21年10月8日(木) 午後3時～4時30分岐阜グランドホテル「鳳凰の間」

■出席者(33名)

秋山会長、小林副会長、小谷副会長、瀬戸(良)副会長、小谷(正)常任理事、中村常任理事、玉田常任理事、松尾中部会長、中川関西会長、佐々木常任理事、石坂理事、水谷(春)理事、滝本理事、中川(佳)理事、清水理事、丸田理事代理、西川監事、山口(専務理事・事務局) <オブザーバー>中部理事:伊藤民康(伊藤印刷(株))、白尾浩志(トキワ印刷(株))、伊藤則男(共同印刷(株))、梶川順生((株)イセト) 福治伸夫(トッパン・フォームズ(株))、加藤薫(アコーダービジネスフォーム(株))、鷺見利行(小林クリエイト(株)) 青山昭治(中部工業会事務局) 中部会員:高橋明久((株)イセト)、大石哲男(トッパン・フォームズ(株)) 中部特別会員:松浦國治郎(富士フィルムグラフィックシステムズ(株)) 関東会員:水谷勝久((株)ビーエフ)、福田健蔵(三郷コンピュータ印刷(株)) 関東特別会員:富山貢太郎(昭和情報機器(株))、中澤祐一(昭和情報機器(株))

議 題 (1)委員会報告

(2)日本印刷産業連合会等関連報告

(3)各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 理事会に先立ち、中部工業会事務局青山様から当日及び翌日のスケジュール説明があった後、中部工業会松尾会長が議長となり議事に入った。

「秋山会長挨拶骨子」

昨夜来の台風により理事会の開催を危ぶんでおりましたが、本日はどうもご苦勞様です。今回の持ち回り理事会に際しましては、中部フォーム印刷工業会の松尾会長をはじめ、関係者の皆様にはいろいろとご尽力いただきまして、ありがとうございます。

一昨日はビッグサイトで開催しておりますJGASの開会式に日本フォーム工連として招かれ

まして、テープカットをしてきましたが、出展点数は前回の2/3程度に減少しているとのことでした。やはり今の経済環境の厳しさが、ここにも反映しているようです。

また、中国などのアジア各国の業界代表も彼らの印刷産業の業績が15～20%落ち込んでいると見ているようです。一方新聞によるとJGASでは「デジタル印刷」市場が活況を呈しているとも聞いています。私も高機能化された印刷機をいくつか見てきました。我々もビジネス領域の拡大に向けて、皆さんと一緒に前進して行きたいと思えます。

委員会報告

●資材委員会

中村委員長より、資料に基づき10月度用紙事



情について説明があった。

8月是用紙概況として国内払出高は前年割れが続いている。ノーカーボン紙も国内払出も少なく在庫が若干増加している。日本製紙連合会の発表では紙・板紙の状況は14.6%減で11ヶ月連続前年割れ、情報用紙についても19.8%減と報告している。

用紙の輸入状況は大幅に増加している。印刷インキ全体(新聞インキを除く)の7月の出荷状況は前年比90.7%、オフセットインキは86.3%と印刷生産量が減少していることがうかがえる。

景気指数からは7月の折込・DM売上高が-11.4%となり、紙の使われ方が大きく変化しているように思う。

●国際委員会

玉田国際委員長より、ベルギーで開催されたラベルエキスポ視察を中心とした欧州関連企業視察についての報告があった。

今回の視察ではビジネスフォーム業界のマーケットと非常に近い所にありますラベル業界の最先端の展示視察を行なうと共に、オランダ・ベルギーでの関連企業を訪問し欧州でのビジネス展開について、会員企業から7名の方々に参加頂き見て参りました。

この視察報告会は技術委員会との合同で12月1日に開催する予定です。

●業務委員会

小谷(正)委員長より、8月27日に椿山荘で開催しました業務委員会主催の第3回講演会「感動を呼ぶサービスの真髄」と題した林田正光氏の講演録が出来ましたので席上配布致します。この講演会には160名の方々が参加され大変感動を受けた内容ですので、フォーム工連のホームページに講演録を掲載致しますので、活用頂くとともに是非会員の各位にご紹介下さい。

●市場調査委員会

事務局山口より、市場調査委員会として実施中のアンケート結果を集計中ですが、回答社数を100社に致したいと考え、追加回答の協力依

頼を行なった。

今年度の「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」の発刊は12月中旬を予定している。

●公正取引推進委員会

事務局山口より、関東工業会で12月11日に「独占禁止法の概要」と題して開催します役員研修会についての報告を行なった。

この役員研修会では公正取引協会の瀧澤事務局長を講師に迎え、企業コンプライアンスの必要について「独占禁止法ガイドブック」をテキストにして学ぶ予定ですので、関東以外の理事の方々も参加下さい

●技術・環境委員会

事務局山口より、10月29日に関西工業会で開催予定の「環境セミナー」についての案内とともに、グリーンプリンティング工場認定への取り組みについて報告した。

また 全国各地で開催される(社)産業環境管理協会主催のカーボンフットプリント制度説明会についても報告があった。

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき下記の報告があった。

・「印刷産業海外展開促進事業」について
フォーム工連の各社から特徴ある製品について作品公募を要請した。締切り期日を10月末日まで延期をして提出を待ちます。

各工業会報告

・中部工業会報告

水谷(春)副会長より、中部地区の現状について報告があった。

中部経済圏は全国の約1割の経済を担っている地区であり、昨年までは自動車をはじめ比較的恵まれた地域であった。しかし 昨年からのリーマンショックによって一番打撃を受けている経済圏になってしまった。

非常に厳しい中ではあるが中部工業会として松尾会長のもと頑張っております。

・各工業会からの活動報告

その他各地区活動状況、用紙状況、マーケット状況等の報告があった。

<小林副会長より謝意と閉会挨拶骨子>

各工業会からの報告ありがとうございます。次回来年の持ち回り理事会は関東工業会があたります。理事の皆様はいつも東京にお出掛け頂いているので、東京以外の場所での開催を企画

致したく思っております。

今回の準備をして頂きました松尾会長はじめ中部工業会の会員方々に感謝します。

これからの懇親の場でコミュニケーションを取合って行きましょう。

次回第7回理事会開催予定

開催日 平成21年11月12日(木曜日)

時間 午後1時30分

場所 日本印刷会館501会議室

日本フォーム印刷工業連合会 平成21年度 第7回理事会議事要録

■平成21年11月12日(木)午後1時30分～3時00分 日本印刷会館 5階501会議室

■出席者(20名)

秋山会長、小林副会長、小谷副会長、瀬戸副会長、小谷(正)常任理事、瀬戸(政)常任理事、中村常任理事、福田常任理事、笹氣常任理事、松尾常任理事、中川常任理事、和田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、清水理事、西川監事、吉澤監事、山口(専務理事事務局)

- 議 題 (1)「印刷工業会(JAP)」について
(印刷工業会堀口専務理事)
(2)委員会報告
(3)日本印刷産業連合会等関連報告
(4)各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 秋山会長の開会挨拶があり議事に入った。

「秋山会長挨拶骨子」

政府の景気対策により、一部持ち直しの動きが見られ、上半期の決算発表で一部に好調な企業も出てきているようですが、依然として、雇用環境の厳しさや個人消費の伸び悩みなど、我々を取り巻く環境は厳しい状況で推移している。一方、鳩山政権での政治主導による意思決定の手法が定着せず、試行錯誤が続いています。

このようななかで、我々は自助努力はもとより、業界の協調と社会的意義も問われています。その意味でも、今後、日本印刷産業連合会に所属して



いる10団体の活動内容や動向について、この理事会でお話頂くことになりました。本日は大手印刷会社が所属しており、商印、出版、包装、パッケージまで手掛けております印刷工業会にお願いしております。

「印刷工業会」について 堀口専務理事

団体の概要について紹介として、工業会の設立は昭和27年、現在の会長は共同印刷(株)の山口



印刷工業会 堀口専務理事

会長。現在の会員は99社であるが会員数が一番多かったのは1992年で124社であった。

本年はじめは会員数102社でスタートしたが、倒産 譲渡 業態変革 業績不振を理由に4社が退会され、100社を切ったのは結成依頼初めての事。

11部会で活動を実施しているが、特にユーザー(教科書協会・雑誌協会等)に対して、部会として様々な提言や説明会を実施している。

会員台帳集計統括表 平成8年以来2年毎に実施し、ほぼ100%の回答を得ている。

従業員100名以上の会員企業が約80%を占め、会員企業の年間売上高の総計は約5兆円で国内の印刷産業の総売上高は約7兆円であるので約70%が印刷工業会会員の売上です。

この統計では売上は伸ばしているが利益は減少しているとの結果ですが、来年実施する集計では惨憺たる状況になることが予想される。

委員会報告

●資材委員会

11月度用紙事情説明についての報告があった。用紙については生産高及び国内出荷高が減少し在庫も増加している。紙・板紙は12ヶ月連続前年割れが続いている。景気指標からは折込DMの売上が18.7%減と落ち込んでいる。

ダンボールの動向を見たいので、今月からダンボール原紙についての情報を追加する。オフセットインキの状況は前年同月比91.5%になっている。

●国際委員会

PSDAレポート10月号の概要報告があった。合同セミナー開催について報告があった。セミナーは4部構成で行なわれ、①ラベルエキスポを中心とした欧州企業訪問、②PRINT09視察報告、③JGAS09視察報告、④パネルディスカッション、を計画中。

●業務委員会

10月度月次計算についての報告と、8月27日に椿山荘で開催致しました業務委員会主催の第3回講演会の講演録が、フォーム工連のホームページに掲載、また 来週11月19日に開催されます中部工業会主催のセミナーについても開催のご案内をホームページに掲載したことを報告。

●市場調査委員会

事務局の山口から、現在発刊の準備を進めております市場調査報告書の冒頭部分を報告。今回アンケートにご協力頂きました社数は78社で、事業全体の売上推移、経常利益推移、商品別売上高の推移、などが報告される。また、プラス要因、マイナス要因についても分析を行なった。発刊は12月中旬を予定しております。

●技術委員会

日本印刷産業機械工業会のフォーム印刷機部会との第2回連絡会の内容を報告。フォーム印刷機についてのメンテナンス状況についてアンケート調査を実施し、27社から回答。今後両者で今回の結果に基づき、生産設備の「あるべき姿」を求め、分析と協議を行なう予定。フォーム印刷機部会と共同で、適正なメンテナンスサイクルの提案や、更にメンテナンスの方法などを、来年2月頃開催予定のセミナーで報告する予定。

JIS規格は5年毎の見直しを行なっており、平成17年に行なった見直しでは確認事項となっております。今回JIS規格について技術委員会で確認した結果、一部寸法表示に誤りがあり、規格寸法範囲も非常に狭い事から、JIS規格改定

の提案を日印産連に提出した。

●環境委員会

環境委員会ではグリーンプリンティング工場認定申請の促進を支援する働きを行なっており、取得促進のために、グリーンプリンティング工場認定を受けた会員各位に対して添付のヒアリング調査を実施中。

●公正取引推進委員会

「独占禁止法」の概要と違反の防止についてと題して、関東工業会の役員研修を12月11日に理事会と併せて実施する。

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

- (1) 「2010年新年交歓会」実施について
一別紙案内・申込書一
- (2) FAGAT(アジア印刷技術情報フォーラム) 参画について
- (3) 「印刷業界における下請適正取引ガイドライン作成事業」
- (4) 下請取引適正化推進月間の実施について(中小企業庁・公正取引委員会)
- (5) 「業種の特性に応じた仕事と生活の調和推進プラン事業」
- (6) 印刷業における地球温暖化対策の取り組み(経産省提出資料)
- (7) 「ブックリボン“本はこころを結ぶ”」への協力依頼(出版文化産業振興財団)

各工業会報告

関東工業会報告(瀬戸会長)

関東は南支部を牽引役として支部活動の活性化を図っている。来年の持ち回り理事会は関東工業会が当番にあたっており、現在箱根での開催を計画している。

東北工業会報告(笹氣会長)

東北では会員のコミュニケーションを図るための施策を行なっているが、年末の12月20日に

懇親会を兼ねて理事会を開催する。

中部工業会報告(松尾会長)

今月19日に(株)ナビットの福井社長から講演を頂く予定。中々景気も上向く状況ではないが、工業会として講演会などを開催してコミュニケーションと情報提供に努めたい。

関西工業会報告(中川会長)

約80名の会員が参加された環境セミナーを実施。このセミナー発表では、ロール原紙数量にあった数量受注の促進についての提案があり、団体としてユーザーに提案して欲しいとの要望があった。

理事会閉会の前に、12月の総会で会長職に就任される(株)小林クリエイトの小林社長からご挨拶があった。

最後に小谷副会長より閉会挨拶があった。

「小谷副会長挨拶骨子」

本日も第7回の理事会にお集まり頂きましてありがとうございます。会議の冒頭、印刷工業会の堀口専務理事からお話を頂き、規模も事業内容も少し異なりますが、同じような課題や問題があることが判り、参考になりました。JIS規格の話がありましたが、昭和40年頃、このJIS規格を作ることがフォーム工連の誕生につながったと聞いており、大事に致したいと思います。次回開催は新年になりますが、迎える平成22年が我々にとって良い年であることを期待して、閉会の挨拶をします。

次回第8回理事会(平成22年新春特別企画セミナー)開催予定

開催日 平成22年 1月28日(木曜日)
 時間 午後3時30分
 場所 目白椿山荘 プラザ棟4階
 ネブチューン

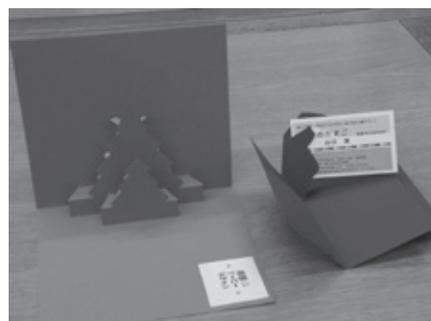
を確認して閉会となった。

第2回特別企画セミナー 「ポップアップDM・カード制作」を開催

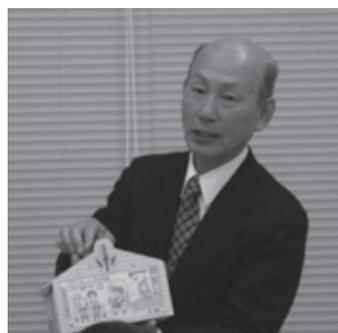
日本フォーム印刷工業連合会は11月17日、東京都中央区日本印刷会館で「第2回特別企画セミナー」を開催。会員など約40人が出席した。

セミナーは講師に高橋宏一氏((株)紙宇宙 制作部門、高橋ペーパーデザイン制作室代表)を迎え、「ポップアップDM・カード制作」のテーマで行われた。

高橋氏は少年・少女向け雑誌の付録や店頭POPなどを手がけてきたポップアップの第一人者。セミナーでは、これまで同氏が手がけた作品を示しながら、アイデアの発想法や作品の構造を紹介した。ポップアップとは紙などを切り抜き、貼り合わせるにより、開く、引くといった操作で立体化する製作物。飛び出す絵本や組み立てPOP、什器など、さまざまな分野で技術が利用されている。



高橋宏一氏の作品



講師 高橋宏一氏

高橋氏は「1年に一つでもいいので、アイデアを形にした製品を作って欲しい。独自のアイテムを持てば、業界は狭いので、すぐに知れ渡り、仕事が舞い込む。印刷は受注産業といわれるが、営業提案も可能になる。アイデアを形にしたいときは力になる」と参加者に呼びかけた。セミナーの後半では、参加者が実際にポップアップ作品「飛び出す名刺入れ」を作成し構造を学び、高橋氏が今回のセミナーに向けてクリスマス飾りとして設計されたポップアップ作品「樅の木」の構図を参加者全員に配布された。

慣れない手付きでカッターナイフや千枚通しを使用したセミナーであったが、紙の持つ新たな力を体験することができた。



セミナー会場風景

国際委員会・技術委員会合同セミナーを開催

国際委員会(玉田健治委員長)・技術委員会(丹羽喜一委員長)は12月1日午後2時から、合同セミナーを東京汐留のトッパンフォームズビルで開催し、160人が参加した。セミナーでは欧州企業とベルギーで開催された「ラベルエキスポ2009」の視察報告ほか、「PRINT09」および「JGAS2009」の視察報告、パネルディスカッションなどが行われ、ビジネスフォームとラベルの領域が重なりつつあるなか、ラベル業界の潮流と欧州のトレンドから今後業界として進むべき方向性について考察した。

セミナーに先立って国際委員長の玉田健治氏が、次のように挨拶した。

「国際委員会では従来は北米企業の視察をしてきたが、今回はヨーロッパの企業視察に切り替えた。北米に比べ欧州の方が比較的日本に事情が近いということで、いろいろ貴重な報告や意見が発表される。実り多い報告会になることを期待している」

続いて、6人の報告者(団長：入野康氏、副団長：藤岡琢哉氏、園田浩司氏、斉藤信行氏、佐伯邦久氏、五十嵐正人氏)により視察報告が行われた。

「欧州関連印刷企業の視察報告」では、印刷機メーカーの製造現場や印刷会社の事例を報告。

電子写真方式のデジタル印刷機「ザイコン」を展開するパンチグラフィックス社は、低速から高速までのラインアップをそろえており、ラベル印刷用途などニッチ分野にも強い。トナーや重要な部品は自社開発しているのが特徴で、デジタル印刷機の心臓部であるLED印字ヘッドは、クリーンルームで組み立てられている。またザイコンユーザーであるパラジェット社のトランスプロモの事例についてのプレゼンを報告。

オランダ・ベルギーで訪問した、エクリプス・インターナショナル社、グループヨス社、フレミッシュ・コミュニティ社の視察報告として、デジタル印刷機の活用方法やダイレクトマーケティング、ラベル印刷、セキュリティー印刷などの状況を報告した。

また「ラベルエキスポ2009」の出展内容にも言及し、「物流やパッケージにたいしてラベルの役割は非常に大きい。ラベルの印刷に関しては、ビジネスフォーム印刷会社が得意とする可変印字や、粘着・剥離剤などの塗工技術を使うことができる」とフォーム業界の強みを強調した。

ラベル新聞社編集部の中村真己チーフは、「ラベルエキスポ2009」の出展内容と、国内外のラベル市場の現状を報告。

印刷機の出品では、電子写真やインクジェットといった最新のデジタル機のラインアップに加え、従来型のフレクソにホットフォイルやコールドフォイル、疑似エンボス、UVセキュリティー印刷など、高付加価値を付けたコンビネーション印刷機の展示内容を報告。また、飛躍的に高速化したレーザーカット技術について映像を交えて紹介した。

米国シカゴで開催された「PRINT 2009」の視察報告は、林英俊氏、饗庭泰之氏の両氏が行ない、封入封緘機の稼働管理システムから再プリントデータを抽出するなどのシステムの万能化や、封入封緘機上にインクジェットヘッドを搭載し、画像差替え印字システムの紹介、プリンタ・製本機・前後処理機等を組合せて、全ての工程を連動させる動きが顕著であると報告。

「JGAS 2009」の視察報告では、視察チームを代表して伊東秀勇氏、鈴木淳生氏、鈴木純一郎氏から、注目される装置として、600dpiの解像度を持ち、毎分300mの速度で印字を行うこ

とが可能なKODAKのプロスパー S10、枚葉菊半サイズ用高解像度の「JetPress 720」「True Press Jet SX」が出品された。また、プリンタ用前後処理機としてホリゾンから同社の製本装置と、スイスのフンケラー社の処理装置を結合したシステムを展示。印刷作業の効率化と合理化設備として検査装置やインキコントロール装置、環境対応としてLED-UVシステムなどを紹介した。

セミナー後半のパネルディスカッションでは、パネリストとして発表の園田浩司氏、中村真己氏、饗庭泰之氏に加えて、元技術委員会副委員長の土井重寛氏も加わって、「今後のビジネスフォーム業界における技術とビジネス動向について」と題して、フォーム工連の山口実専務理事がコーディネーターになり、ビジネスフォーム業界の課題が率直に語られた。

園田氏は欧州と日本の印刷会社の違いについて、「日本の印刷業界は受注産業に近いところがあるが、ベルギーでは得意先と印刷業界は対等なビジネスパートナーと感じた」と述べ、先般開催されたセミナー講師の言葉を借りて、今印刷会社に足りないことは「私たちのお客様と一緒に問題を解決しましょう、一緒に悩みましょう」との姿勢が不足しているのではと指摘。中村氏は、RFIDが注目を集めながらも、まだあまり浸透していないことについて「コストダ

ウンが課題。現時点ではバーコードで十分と思われるので、今後キラーコンテンツが出てくれば普及してくるかもしれないが?」と話した。

土井氏は「環境対応や商業印刷との競合など、現在のフォーム業界では課題が山積しているが、JGASにはそのヒントがいくつかあったように思う」と話した。

山口専務理事からは今後の印刷とのマルチメディアを予感するAR(拡張現実)*のデモを動画で紹介した。

セミナーの最後に、技術委員長の丹羽喜一氏があいさつし、「将来のフォーム業界は、DPSと従来のフォーム印刷が5対5になっていく」と、将来の見通しを示した。

なお、今回の合同セミナーの発表資料は、日本フォーム印刷工業連合会のホームページに掲載致しておりますので、ご覧下さい。

*AR (Augmented Reality) 拡張現実

現実の環境(の一部)に付加情報としてバーチャルな画像を電子情報として合成提示することが特徴。

セミナーのデモでは、キーマークが印刷されたチラシ印刷物をWebカメラに取り込むことによって、チラシ内容に連動した3D動画がPCモニター画面に合成画像として現れる。



合同セミナー 発表者



合同セミナー会場風景

関東フォーム印刷工業会(瀬戸良教会長)は、12月12日、定期理事会に併せて日本ユニシス「伊豆エグゼクティブ・センター」(静岡県伊東市)に於いて役員研修会を実施した。

今回の役員研修会では、非常に厳しい市場環境の中にあるが、企業コンプライアンスの必要性を、(財)公正取引協会 事務局長の瀧澤文海氏から「独占禁止法の概要と違反の防止について」と題してご講演頂きました。

講師の瀧澤先生は昭和40年に公正取引委員会事務局に入局され、調査部情報管理室長、東北事務所長など要職を歴任され、平成15年7月より公正取引委員会と企業の架け橋となっております現職に就任されております。

競争政策の重要性、最近発生した独占禁止法違反事件についての概要と特徴、価格カルテルや優越的地位の濫用事件など、資料とテキストを用いて予定時間を30分以上も超え、分かりやすく説明されました。

独占禁止法は公正で適正な競争を促す法律で、先行している海外では競争促進法との意味合いを強めており、目的は「私的独占：他事業者を支配又は排除」「不当な取引制限：カルテル等」「不公正な取引方法：談合等」の禁止に集約される。

違反事例については、道路公団の橋梁談合以

来検察事件としても取り上げられ、平成18年の法律改正により課徴金減免制度(リーニエンシー)*が導入されたこともあり、毎年20件以上の違反が上がっている。

企業コンプライアンスについては企業トップの基本姿勢が最も重要で、遵守マニュアルによる営業部門に対する日常的な教育、風通しの良い社内風土が何より必要であると強調された。講演の最後に、独占禁止法を良く知って、公正で自由な競争により健全な企業発展を求める、新時代に即した意識改革をして欲しいと訴えて結んだ。

今回の役員研修会には公正取引委員会委員も出席され、講師の瀧澤先生も参加された懇親会でも、話題が尽きなく深夜まで続いた長い一日となった。

なお、本役員研修会で使用したテキスト「独占禁止法のあらまし」(財団法人 公正取引協会編 頒価300円)を正会員については無料で配布致しますので、日本フォーム工連事務局まで連絡下さい。

*課徴金減免制度(リーニエンシー)

違反を自主的に申告した企業に対して課徴金を減免(申告順位に従って1番目が全額、2番目が50%、3番目が30%減額)する制度。



講師 瀧澤文海氏



研修会会場風景

関東フォーム印刷工業会

5支部合同講演会を開催

関東フォーム印刷工業会の5支部(東支部長:渡辺浩次、西支部長:剣路幸、南支部長:山口和正、北支部長:福田健蔵、北陸支部長:佐々木慎一)では、会員相互の懇親をはかるために、10月22日、新宿ワシントンホテルにおいて、ゴルフレッスンプロの青山薫氏を迎えて「怪人イップス青山薫プロが教える上達の極意!」と題して5支部合同で講演会を実施した。

講師の青山薫氏は、アマチュアの気持ちを重

視した実践的レッスン法で、2009 ゴルフダイジェスト アワード「レッスン・オブ・ザ・イヤー」を授賞され、今、大活躍の石川遼プロに小学3年生の時、生まれて初めてゴルフを教えたプロとして有名。

講演会では分かり易くゴルフ上達の極意を話され、最後にプレーに臨む前に行なうと良い体操を披露。講演会に参加された約70名の会員の、その後のスコアが気になるところです。



講師 青山薫氏



体操する参加者

福井社長は「のりかえ便利マップ」を考案した発明主婦、そして起業家として各メディアで紹介されている著名な人。講演の中で、福井社長は、育児中にベビーカーを押しながら地下鉄で迷った経験から「のりかえ便利マップ」を思い付き、実際に地図を製作するまでの経緯を説明。次に「のりかえ便利マップ」をもとに、「(有)アイデアママ」を設立し、業績の拡大とともに社名を現在の「(株)ナビット」にするとともに、事業内容もスーパー特売チラシ検索サイト「毎日特売」を立ち上げるなど、紙媒体だけでなく、IT、Web、ネットワークの分野にまで事業領域を拡大してきた過程を説明した。現在(株)ナビ

ットは、全国のSOHOスタッフの25,000名体制により、定期的なデータ収集、調査、コンテンツ制作、企画、システム開発までを一括して受注する企業と成長している。

講演の最後に福井社長は「イヤだなと思ったら、『そこにビジネスチャンスがあると思え!』」と説くとともに、今後のビジネス展開のキーワードは「デイリー/タイムリー/オリジナリティー」であり、この三つを組み合わせることが成功のポイントだと強調された。

講演後の質疑応答では、聴講された会員の方々より多くの質問や意見が交わされ、大変有意義で実りあるセミナーとなった。



講師 福井泰代様



セミナー会場風景

中部フォーム印刷工業会

平成21年度セミナーを開催

中部フォーム印刷工業会(松尾富正会長)は、11月19日にメルパルクNAGOYAにおいて、「ビジネスチャンスをどう見つけるか」をテーマとするセミナーを開催した。セミナーでは(株)ナビット(本社・東京)代表取締役の福井泰代様が講演し、当工業会の会員各社及び愛知県印刷工業組合の加盟各社からの参加も含め、81名が参加した。

講演に先立ち、今回のセミナーを企画した日本フォーム印刷工業連合会の山口実専務理事が挨拶に立ち、日本フォーム印刷工業連合会と同

工業会の概要を説明し、講演をしていただく福井社長様との早稲田大学の研究会での出会いのエピソードや、経済状態が非常に厳しい地方の方々に支援をしたいという思いから、今日の講演の運びとなったと、講演に至る経緯の説明があった。「ビジネスフォーム業界も製造業から複合サービス業へと大きく業態変革が求められている今、今日の講演が皆様の大きなヒントになればと願っています」と挨拶された後、福井社長から「ビジネスチャンスをどう見つけるか」をテーマに講演された。

関西フォーム印刷工業会

環境セミナーを開催

関西フォーム印刷工業会(中川博志会長)では10月29日、日本紙パルプ商事(株)ビル(大阪市中央区)会議室を会場に「BF業界が直面する待ったなしの環境対応」と題し環境セミナーを開催した。

出席者70名、当日参加できず後日に資料を請求された方22名、と大きな反響を呼ぶ結果となった。

冒頭、中川会長から開催挨拶があり「環境対応は企業の社会的な責任であり避けて通れない課題である。対応を誤れば企業存続にも悪影響

を及ぼす、そのような背景から今回の環境に絞った企画を立てた。本日のセミナーでは会員の実施事例も含めてのお話であり今後の参考になることが多いと思うので皆さんにとって有意義な情報としていただきたい」と趣旨説明が行われた。

セミナー第一講は、(社)日本印刷産業連合会 殖栗正雄様から「リサイクル対応印刷とグリーンプリンティング認証制度について」と題して、印刷産業を取り巻く様々な環境課題と法規制の状況、それらに対応する為のポイント、更に印

刷業界における第三者認証であるグリーンプリンティング認証制度の内容と効果などについて包括的な説明を受けた。

セミナー第二講では、関西フォーム印刷工業会の会員による事例発表が行われた。

最初に(株)イセト 野間賢一様から「グリーンプリンティング認証取得と活動」として、グリーンプリンティング認証取得を行った事例発表があり、取得の背景、実際の取得活動、必要な費用の説明などが行われた。同氏はグリーンプリンティング認証の取得は第三者認証を得ることであり、社外へのアピールにも有効であること、関西では認証取得の意欲が低く、中でもフォーム印刷業界が特に取得企業数も少ないことから、より積極的な検討を行うべきと提言された。

次に東洋紙業(株)玉井敏晴様から「全社的な環境対策」について発表が行われた。

同社の企業方針としてISO-14000の取得を目指すとともに、生産工場での消費エネルギーの削減事例として、工場熱源を従来の電力・ガス併用から電力に統一した経緯と結果が報告され、期待通りの削減効果が得られたとの説明が行われた。

また エネルギーを電力に統一した背景には、阪神淡路大地震における復旧状況から、ガスより電力の復旧が早いことなども考慮したと話された。

同氏から巻取り原紙の残紙の課題について意見が出され、「顧客からの注文が切りの良い数万枚といった数字で推移しているが、実際の巻取

り紙長さでは、どうしても端数が残り、最後はそれらを廃棄せざるを得ないのが現実である。これは広い意味での環境負荷増大にもつながり、何より『もったいない』と思う。紙の長さに応じてユーザーの必要数量を相談し、原紙の無駄を残さない受注方法を当社では行っている。しかし この施策は一社が努力してもユーザーの理解が得られないことも多いので、フォーム印刷業界全体で活動することが必要ではないか。是非、フォーム印刷工業会で取り上げていただきたい。」との提言が行われ、セミナー参加者の強い興味を惹いた。

セミナー第三講では、(株)ファーストエスコ川見俊之様から「事業者向け省エネ対策」と題して、小規模な事業場であってもエネルギーの見える化から始まって実際の改良例、必要な資金の公的な補助制度、また(株)ファーストエスコ社によるエスコ事業の紹介などが行われた。

締めくくりとして、日本フォーム印刷工業連合会 山口専務理事から挨拶があり、「グリーンプリンティングの認証取得を通じて環境課題への対応を進めなければいけない。また、東洋紙業(株)玉井敏晴様からの原紙を有効利用する提言は、業界として取り組むことが必要と考えられるので、全国理事会で取り上げ議論していきたい」とのご意見をいただきセミナーを終了とした。

午後1時半から休息を挟みながら、午後5時まで内容の濃いセミナーを行うことが出来、参加者、主催者、共々に今後の環境対応に関する情報整理が行えた。



セミナー会場風景

市場調査委員会

■2009年度版「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」を発刊

市場調査委員会(岡田正明委員長)では、前回の2008年度調査に引続いて、2009年6月～9月に会員企業を対象に調査したアンケート結果をまとめた「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」を発刊しました。

本調査では、一昨年(2008年)の調査後に発生した「リーマンショック」を起因とした大きな経済変動により、ビジネスフォーム業界の変化を捉えるための質問を加えるなどの工夫を行ない、各社の「現状の課題」と「今後の事業展開」についてのまとめを行なっています。

調査結果からフォーム印刷分野(DPSを含む)の売上高は前回調査と大きく変わらないが、DPSに関わる売上高を10%以上伸ばしている企業が約3割あり、DPS事業に支えられている構図が見られます。フォーム業界は様々な努力を重ね今回の結果を残しておりますが、しかし、得意先の伸長に支えられ、得意先の増産要請に必死についていくことで売上や利益を伸ばして

きた側面を忘れることはできない。

報告書のまとめでは「市場は急変した。今までの『頑張る』に『考える』を足して生き残っていく、そんな考えが経営者に芽生え始めている」と今回のアンケートは語っている」と述べています。

新市場の開拓、営業戦略、設備投資、新製品の開発で苦悩しているフォーム業界に大きな花を咲かせるには、会員一同が一丸となって活動していくことの大切さを示唆する内容となっている。

記

本文	A4判	40ページ
価格	会員価格:	1,000円
	一般価格:	2,000円(消費税・送料込み)
・報告書目次	・はじめに	・調査概要
・アンケート回答企業概要	・アンケート結果	・まとめ

国際委員会

■国際委員会 北米印刷事情レポート(2009年10月～12月)

米国郵政は2009年末で70億ドル以上の赤字

米国郵政は、第3四半期(2009年4～6月期:米国郵政は10月始まり)に24億ドル(百円換算で2,400億円)の赤字を計上した。通年で既に60億ドル(約6,000億円)のコスト削減を達成しているが、2009年末で70億ドル(約7,000億円)まで赤字が膨らむ予想である。

主な原因は取扱通数の減少で、昨年度比約15%減で約200億通の減少が見られた。取扱量の改善を促進する為に、10月1日から12月末までの3ヶ月間、ビジネスメール(特定条件あり)の価格の20%割引を実施した。

グリーン化(環境対策)の加速

「How Green will Save Us」(環境改善活動が

どのように我々を救うのか)と題して、クリントン元大統領の寄稿記事を初め数々の記事を紹介。2009年7月、ウォルマートが、「仕入商品が、如何に地球環境保護とサステナビリティに対応しているか、地球環境保護指数を点数化するシステムを開発する」と発表。

ウォルマートはソーシャル・メディア・ネットワークを利用した販売促進活動で大きな成功を収め、同社のサイト上では様々な観点から購買実績を点数化しており、新規顧客はこの点数やコメントを参考にしながら購入を決定している。納入業者はこの商品の点数化の動きが、他の小売業者の間でも広まる可能性があり、サプライチェーン全体を見直す動きが加速している。

ビジネスフォーム製造業者トップ100社発表

業界専門誌「PRINT Professional」10月号に製造業者のトップ100社を紹介。米国のBF業界は製造を専門にする会社と販売を専門にする会社が分業している。

トップ5社紹介

	会社名	売上金額 (単位:千ドル)	従業員	拠点
1	Ennis (テキサス州)	584,029	5,500	48
2	Champion Industries (W.バージニア州)	162,685	725	20
3	BCT (フロリダ州)	115,000	1,000	70
4	Western States Envelope & Label (ウィスコンシン州)	110,000	634	5
5	Paris Business Products (ニュー・ジャージー州)	81,300	94	5

() 内は本社所在地

上位5社売上構成比(4位Westernは封筒・ラベル専門の為除外)

ビジネスフォーム市場インタビュー記事

連続フォーム市場は、デジタル化の流れを受けて10年以上も下降線をたどり続けている。そのような中、閉業する製造会社もあれば先行きに不安を抱えながらどうにか食いつないでいる会社もある。しかし、現在も堅調に売上を伸ばす会社が存在する。

Paris Business Products社(売上規模で5位、売上約81億円)と、Quick Tab II社(売上規模78位、従業員75人、売上約9億円)の2社を紹介。

Paris Business Products社は、潜在需要の掘り起こしや製品形態の工夫をする姿勢が評価され業績を伸ばしている。新しい規制や制度にいち早く対応し、印刷物関連の製品化に精通すること。また オフセットユーザーにデジタルプリントと同様の数量、色数、仕様、価格で対抗出来るように、可能な限り工夫をすることである。

同社は減少している市場であるにも関わらず、生産の効率化の為にコレクターやラッピングマシンの追加投資さえ行っている。

Quick Tab II社は、ビジネスフォーム印刷と小切手等のセキュリティ印刷が主であるが、一般印刷物市場への切り込みと、小切手であればどんなサイズでもどんな仕様でもより安価な対応ができるという小回りの良さで顧客の評判を呼んで安定した業績を残している。

レポーターはまとめとして、「ビジネスフォームにとっての苦難の道が続くなか、顧客の声にこたえ続け、自らを常に変え続ける企業が、生き残り、且つ成長している」と結んでいる。

マーケティングは「iDirect」

10月末サンディエゴで開催されたDMA09(ダイレクトマーケティング展示会)で印刷関連企業では紙とデジタルのシームレスなソリューションを提唱。DMA09全体のキーワードは、「iDirect」でした。

iDirectとは、interactive(相互に影響しあう対話式)、informative(有益な知識や情報を提供)、insightful(洞察力があり)、individualized(個別化され)、innovative iterative(革新的で反復性を持つ事)をさしています。相互コミュニケーション時代においてインターネットをベースに実現を可能にしたもので、最も反応が良く、手頃な価格で、理にかなったソリューションであり、iDirectはデジタル時代のマントラ(真理を表す秘密の言葉)と言える、と基調講演のスピーカー Stan Rapp氏は力説した。

ソーシャルメディアと印刷業界

10月26日、オンライン情報提供サービス「WhatTheyThink」のインターネット・ビデオセミナーに、「米国印刷会社によるソーシャルメディアサービスの利用について」という特集記事を掲載。

ソーシャルメディアとは、ブログ、SNS(Social Networking Service、mixiなど)、動画共有サイト(YouTubeなど)、Second Lifeなどを指しますが、印刷業界でも、ソーシャルメディアをどう仕事に活かすか、という視点が重要になっ

てきてるとDr. Joe Webb氏は指摘。特にデジタル印刷の分野では、個人宛てに作成した販促チラシにPURLのリンク先と同時に、ソーシャルメディアサイトのTwitterアドレスを印刷するような事例がいくつもでてきている。

10月に行なったPSDAのセミナー(基調講演)でも、参加者250人の殆どがソーシャルメディアの一つであるLindedinを利用していると回答しているが、毎日使っているかとの質問には、僅か1/4程度の人がYesと答え、顧客向けに仕事で使っているかとの問いには僅か3名しかYesと答えていない。

マーケターの多くが、如何に販促活動に組み込むかを思考錯誤しているが、市場では今ソーシャルメディアの利用が盛んに話題になっている。印刷業界にいる我々はこのメディアを自分たちのサービスに如何に取り込めるかを真剣に考えねばならない時期に来ている。

ビジネスフォーム販社(Distributor) トップ100社発表

業界専門誌「PRINT Professional」11月号に販社(Distributor)トップ100社が掲載されましたのでご紹介します。米国のBF業界は製販が分業しておりますが、今回は販社のみを紹介します。尚、RR Donnelley、World Color(旧Quebecor World)、Cenveo各社は、製販合体型の総合印刷会社で、こうした統計には数値を反映しておりません。

販社(Distributor) トップ5社紹介

	会社名	売上金額 (単位:千ドル)	拠点
1	WorkflowOne (オハイオ州 Dayton)	584,029	140
2	InnerWorkings (イリノイ州 Chicago)	162,685	25
3	Proforma (オハイオ州 Cleveland)	115,000	700
4	American Solutions for Business (ミネソタ州 Glenwood)	110,000	482
5	Kaeser & Blair (オハイオ州 Cleveland)	81,300	1

() 内は本社所在地

上記発表内容から下記3点が明確になっています。

販社上位企業の本社は、シカゴ・ニューヨークを基点として、その周辺地域に位置しており、一方 製造業者上位企業の本社は南部か北部に位置しています。

販社上位企業は企業の広告宣伝費を主な収入源とした、販促品・一般印刷・DMの売上合計が過半数を超えている。

営業上位4社以外は、地域密着型で、売上が日本円で100億円以下。

過去3年間の販社100社の売上推移をみると、2007年度32億ドル(約3,200億円)、2008年度35億ドル(約3,500億円)、そして今年2009年度が34億ドル(約3,400億ドル)である。

製品別の売上推移は、詳細の発表をしていない企業InnerWorkings社やProforma社を除く。

- ビジネスフォーム印刷：
 - 558.5億円(2008年度652億円) 14%ダウン
 - タグ・ラベル：
 - 185.9億円(2008年度241億円) 23%ダウン
 - 一般印刷：
 - 368.2億円(2008年度378億円) 2.6%ダウン
 - デジタル印刷：
 - 185.9億円(2008年度201億円) 7.5%ダウン
 - ダイレクトメール：
 - 152.5億円(2008年度177億円) 14%ダウン
 - プラスチックカード：
 - 15.1億円(2008年度25億円) 40%ダウン
 - RFID製品：
 - 114.8億円(2008年度126億円) 9%ダウン
 - オフィスサプライ：
 - 250.2億円(2008年度329億円) 24%ダウン
 - 封筒類：
 - 183.5億円(2008年度312億円) 41%ダウン
 - 販促品：
 - 343.2億円(2008年度340億円) 微増
 - eコマース：
 - 119.8億円(2008年度507億円) 76%ダウン
- 「ビジネスフォーム印刷」は、依然として販

社売上の最上位で、全体の16%を占めている。

「e-コマース」の落込みは明確な説明ができないているが、業界の将来の柱の一つと思われるだけでなく、この落込みには大きな不安を残している。

バーチャル住所宛て郵便物のデジタル配送サービスについて

7月22日：イリノイ州New Lenoxにて、政府関連機関がデジタル請求書の送付を開始

9月22日：サンフランシスコ市、及びNJ州のニューアーク市が通達送付の実験を開始

10月1日：ニューヨーク市の5つの行政区で実験開始、既に1500万通を送付

このサービスは「e-メール」で請求書やニュースレターを送る場合と異なって、配送先が「デジタル住所」となるASPサービスになります。

例えば、サンフランシスコ市ABC街999番地…のように、郵便の住所と全く同じものをWeb上に作り、定期的に住所とデジタル住所の同期をさせています。

利点としてはASPサービスでありクローズドシステムで安全であり個別設定がいらぬこと。住所データがあれば受領者の承認を受けることなくデータ送信が可能なこと。受領者はASPサービスで提供される支払機能やデータ整理機能など便利に使用することが可能になる。

この新サービスは、全米のグリーン化の波に乗ってビジネスを展開しているの、税収の収入減に苦しむ郡や市において、郵便料金の削減、郵送物の廃棄処理にかかる費用削減、などの効果をアピールし、公共料金の請求業務や各種通知物の発送などで広範囲に利用が広がる可能性があります。

■北京に於けるInfoTrendsセミナー基調講演レポート

“CHINAPRINT 2009”開催に併せてInfo Trendsセミナーが昨年5月北京で開催された。日本フォーム印刷工業連合会の視察団も参加したこのセミナーの基調講演で、Info Trends社長のJeff Hayes氏は下記の講演をされた。

ヨーゼフ・シュンペーター（ケインズと並ぶ20世紀前半の代表的経済学者）は「イノベーション（革新）が経済を変動させる」という理論を唱えました。

過去250年間の産業分野でのイノベーション（革新）の波を見ると、5つの波があります。

第1の波は、水力、鉄、織物、それから50年後の第2の波は、蒸気機関、鋼鉄、鉄道が出現します。20世紀に入ってからの第3の波では、電気、化学、製氷技術などが生まれました。その後の第4の波では、石油化学、電化製品、航空機などの産業が生まれ、そして今、第5の波では、デジタル通信網、ソフトウェア、ニュー

メディアの時代になり、私たちは今この第5の波の中間にあります。

経済成長を牽引するのは企業家です。企業家は、ビジョンやアイデアを持っていて、新しい技術を使ってビジネスプロセスを変え、顧客のニーズを入れた新しいビジネスモデルを構築していきます。

それによって顧客にとって新しい価値を生み出し、経済の仕組みまでを変えて経済を成長させて行きます。

私たちは今、マルチチャンネルの世界にいると考えています。

新聞が家の玄関に届けられるように、私たちは様々な情報が印刷で提供されるか、あるいはコンピューターや電子ブックリーダーなど電子的媒体で提供されるか、マルチチャンネルでの提供を受けることが可能です。また取引の書類は郵送による送付の他、ウェブサイトで見ることのできるようになり、多くの人は写真や映

像をホームページに掲載し、友達やグループで共有して楽しんでます。今やマルチチャンネルでのビジネス環境は必須事項になりました。

今、一番大きなイノベーション（改革）を進めるのは、ビジネスモデルだと思います。

私たちの顧客はIT（コンピューター・情報通信など）によって大きく変わりました。

印刷はデジタルプリントによって、今何を印刷するのか、どこに印刷するのか、いつ印刷するのか、というモデルが変わってきています。

情報サービスのモデルでは、コンテンツデータのマネジメント、顧客のマーケットプログラムの作成や、市場分析を助けるサービスなど様々なビジネスが含まれます。

印刷を行ない、製造報告をし、在庫管理を行なう工程管理のみでなく、新たなビジネスモデルで重要なことは、サービスを顧客に提供することで、顧客のビジネスを成功させる。そこにビジネスチャンスがあると考えています。

デジタル技術をビジネスに取り込み、デジタルプリント設備に、またIT（コンピューター・情報通信機器など）やソフトウェアにも資本を投資して下さい。

ワークプロセスを再構築し、情報通信ネット

ワークにつなげて、デジタル印刷の価値を最大限に生かして下さい。そしてインターネットを通して顧客に接続し、マルチチャンネルの環境への準備をすることが必要です。

そして伝統的なプロダクションサービスを超えて、様々な情報サービスやマーケティングサービスをビジネスに取り込んでいくことです。

それによって、将来、様々な経済変動があっても、そのサービスネットワークの中で生き残っていくことができるようになります。

また、私たちは顧客を啓蒙して印刷（プリント）の価値を解ってもらう事です。ただじっと待っていても仕事は来ません。

私たちの顧客に対して何が出来るのか？ また、顧客のニーズに対してどの様に答える事が出来るのか？を追求していく必要があります。そしてこの創造的破壊が重要だということです。

最後に申し上げたいのは、今ある方法を壊して、新しいビジネスモデルを作り、顧客にとっての新しい価値を作り出すこと。

すなわち「創造的破壊」が一番重要で大事であると私は考えています。

■書籍案内(日本印刷産業連合会発刊)

- ・印刷産業のための個人情報保護の手引き（平成21年11月改訂版）
- 印刷産業における個人情報保護ガイドライン（JIS Q 15001：2006 準拠）解説書—
- 平成21年11月発行／A4判128頁／日本フォーム工連会員特別価格1,500円（税込・送料込）

（社）日本印刷産業連合会では、平成19年7月にJIS規格に準拠した「印刷産業における個人情報保護ガイドライン」（平成20年2月1日改定）を制定しました。また、印刷産業としての個人情報保護活動のため、平成20年2月に「印刷産業

のための個人情報保護の手引き」を上梓しました。初版以降印刷業界では「個人情報保護マネジメントシステム」（PMS）の導入が進みましたが、それを上回るスピードで個人情報保護への社会的要請は大きくなっています。こうしたことから初版では解説しきれなくなった問題や新たに明確になった事柄について取り上げる必要があると考え、この度「改訂版」を発行しました。改訂版では「ガイドラインの逐次的な解説」のほか、印刷業界特有の業務フローにおいて「見過ごされがちな安全管理措置」や「日常業務での社内規定や様式サンプル等の具体例」を豊富に取

り上げております。

構成

- ・個人情報保護マネジメントシステム構成早見表
- ・「印刷産業における個人情報保護ガイドライン」の条文解説のページ
- 第1章 総則 第1条～第3条
- 第2章 要求事項 第1節(第4条)～第13節(第41条)
- ・資料及びサンプル ・事例INDEXのページ

内容

- ・「ガイドライン」の条文ごとに、目的や内容に関する印刷事業者向けの平易な解説
- ・印刷事業者が見落としがちな、安全管理措置について、具体的事例で丁寧に解説
- ・PMS推進のための組織体制、文書、記録、作業手順などの詳しい様式サンプルを掲載
- ・実際の場面に即して、すぐに活用できる事例をわかりやすく、小見出しつきで多数紹介
- ・知っておきたい法令・規範、省庁・業界のガイドラインへのアクセス一覧

■ ホームページ掲載一覧 (10月～12月)

- 10月16日 セミナー記録：業務委員会主催 平成21年度第3回講演会(8月27日開催)
「感動を呼ぶサービスの真髄」
CSホスピタリティ総合プロデューサー 林田正光氏
- 10月16日 業務委員会：日本フォーム印刷工業連合会第5回理事会報告
- 10月16日 資材委員会：9月度・10月度用紙事情報告書
- 11月09日 セミナー情報：中部フォーム印刷工業会主催セミナー案内
「ビジネスチャンスはどう見つけるか」
発明主婦で起業家(株)ナビット 福井泰代様
- 11月09日 業務委員会：日本フォーム印刷工業連合会第6回理事会報告
- 11月09日 セミナー情報：国際委員会・技術委員会合同セミナー
「LABEL EXPO 2009・欧州関連企業視察」「PRINT2009・JGAS2009 視察報告」
「パネルディカッション」
- 12月07日 資材委員会：11月度用紙事情報告書
- 12月07日 業務委員会：日本フォーム印刷工業連合会第7回理事会報告
- 12月09日 セミナー記録：平成21年度第1回特別企画セミナー(7月15日開催)
「印刷市場を広げるプロモーション・マーケティング」
(社)プロモーション・マーケティング協会 専務理事 坂井田稲之氏
- 12月09日 セミナー記録：国際委員会・技術委員会合同セミナー(12月1日開催)
合同セミナー発表資料公開

印刷技術の未来を担うパイオニア

MJP20F

フルカラーインクジェットプリンター



- ・最高解像度 1200dpi×1200dpi
- ・印字速度 330m/min(600dpi×360dpi時)
- ・最大印字幅 541mm

MD-Press

液体トナー方式電子写真プリンター



- ・解像度 1200dpi×1200dpi
- ・印字速度 60m/min
- ・最大印字幅 487mm



〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 1-13-5
TEL:047-493-3854 FAX:047-493-3071
URL: <http://www.miyakoshi.co.jp>

Chance (CO2 削減への機会)

Eco-UV システム(低電力型紫外線照射装置)



	従来型ランプ	弊社ランプ	比較差
ランプ総電力	8kw	2.2kw	▲ 5.8kw
待機総電力	4kw	0.5～0.75kw	▲ 3.5～3.25kw
年間電気代	40万円	11万円	▲ 29万円
年間CO2排出量	8.88t	2.44t	▲ 6.44t

条件：発光長 500mm、電気代 25kw/時間、稼働時間 2,000時間/年

電力、電気代、CO2 を約70%削減します

株式会社東通研 東京都豊島区要町1-29-11 電話03-5917-1160
E-mail: totsuken@tkm.att.ne.jp

NPiフォーム *NEXT-IJ*



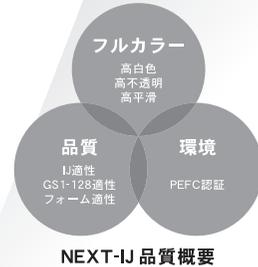
次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS 事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPiフォーム NEXT」をベースに高性能インクジェット適性(耐水性、高発色性)を付与し、新たにラインアップいたしました。

■ NPiフォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/m ²)	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※尚、本製品は受注生産となります。



日本製紙株式会社 情報・産業用紙営業本部 情報用紙一部
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 Tel. (03) 6665-1042

ビジネスフォーム印刷用 BST自動見当装置システム

プロセスカラーの見当合わせ時間の短縮に最適!

■ 採用のメリット!!

- ・各オーダ及びオーダプロフィールのデータ管理!
- ・ロット量にかかわらず始かかり時間の大幅短縮!
- ・オペレータの技量を選ばないシステム!
- ・手動操作に対して大幅な損紙の軽減!
- ・印刷スピードの大幅アップ!
- ・大幅な損紙の軽減



BSTビーエスティ日本株式会社

東京営業所 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-27 アベニュー高輪411号室 TEL: 03-5798-7805 FAX: 03-5798-7806
本社 〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-10-9 箕面フレールビル3階 TEL: 072-727-4704 FAX: 072-727-4914
大阪工場 〒594-0062 大阪府和泉市寺田町3-1-27 TEL: 0725-44-9930 FAX: 0725-44-9931



21世紀の情報記録を
サポートします。

三菱情報記録用紙

- 三菱 NCR紙
- 三菱 IJフォーム用紙
- DFカラーM・G
- ダイヤフォーム
- ダイヤメールシリーズ
- OCR用紙
- 感熱紙

三菱製紙株式会社 洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号 ☎ 03(3213) 3732
大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎ 06(6271) 4455

三菱製紙販売株式会社 名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22名古屋ダイヤビル ☎ 052(563) 7561
本店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎ 03(3566) 2341
大阪支店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-3-9 ☎ 06(6271) 2271
東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎ 022(295) 7710
九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎ 092(771) 1531

紙粉による印刷トラブルを解消!!

特許出願中

KBDパーブリーナー

もう紙粉のトラブルに悩むことはありません!

特長

- 素材に全く傷を付けず、強制的に素材(紙、フィルム)を超微振動させ、紙粉を強制的に遊離させて、効率よく吸引除去させます。
- 特殊ローラーを使用し、素材(紙、フィルム)に対し粘着したり、擦ることがありません。

紙粉の除去が多様なメリットをもたらします!

1. 白ヌケが全く無くなった
2. 印刷機を止めることがないので…
 - 紙のロスの軽減
 - ブランケット洗浄回数が1/3に
 - 刷版の洗浄が不要になった
 - 以上により、印刷機稼働率が大幅にアップ
3. その他
 - 紙粉が飛散しないので、工場内の空気がきれいになった
 - メンテナンス不要によりオペレーターの負担が軽減
 - 色合いのチェックや見当ズレ等のみに注意すればよくなった
 - 洗浄液使用量が1/3に、またインキに紙粉がまじらないので、インキ廃棄量も削減
 - 枯渇資源の削減につながる



インキ練りローラー自動洗浄装置

KBDローラーグリーンシステム

インキ洗浄時間の大幅短縮・安全、資源の節約を極める

販売実績記録を
更新中!



インキカラーコントロールシステム

KBDマイクロカラー-SL

シール・ラベル小型印刷機専用システム

タッチパネル方式で
使いやすくなって、
新機能も追加!

インキカラーコントロールが
グッと身近に。

ニュータイプ登場!!



印刷機材の総合商社

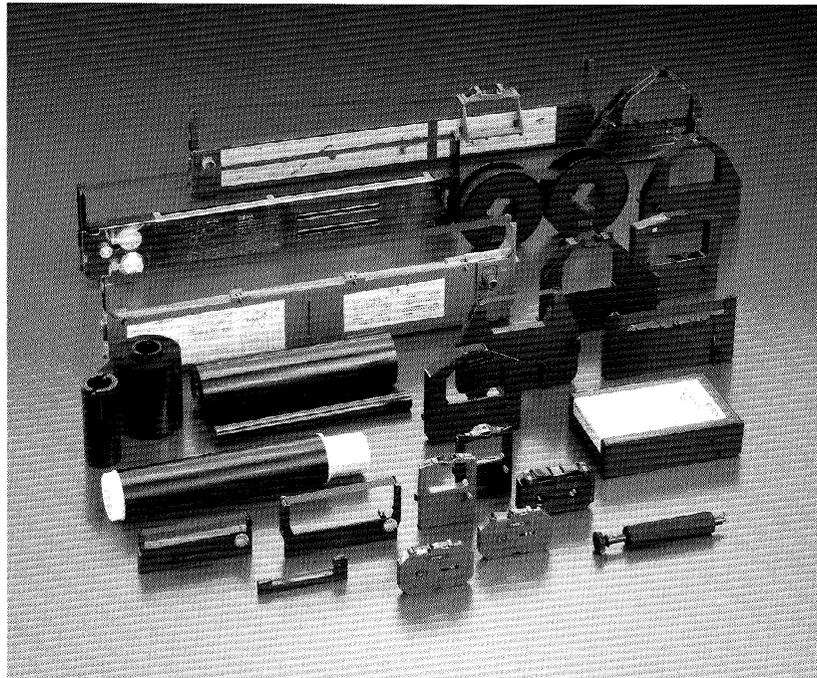
株式会社 光文堂

<http://www.kobundo.co.jp>

本店/〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052(331)4111(代)
支社/東京 支店/東北・静岡・大阪・北九州・福岡 営業所/北海道・青森・山形
千葉・山梨・沼津・浜松・豊橋・岐阜・福井・金沢・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄

貴社の利益倍増計画に協力する 弊社の商品群

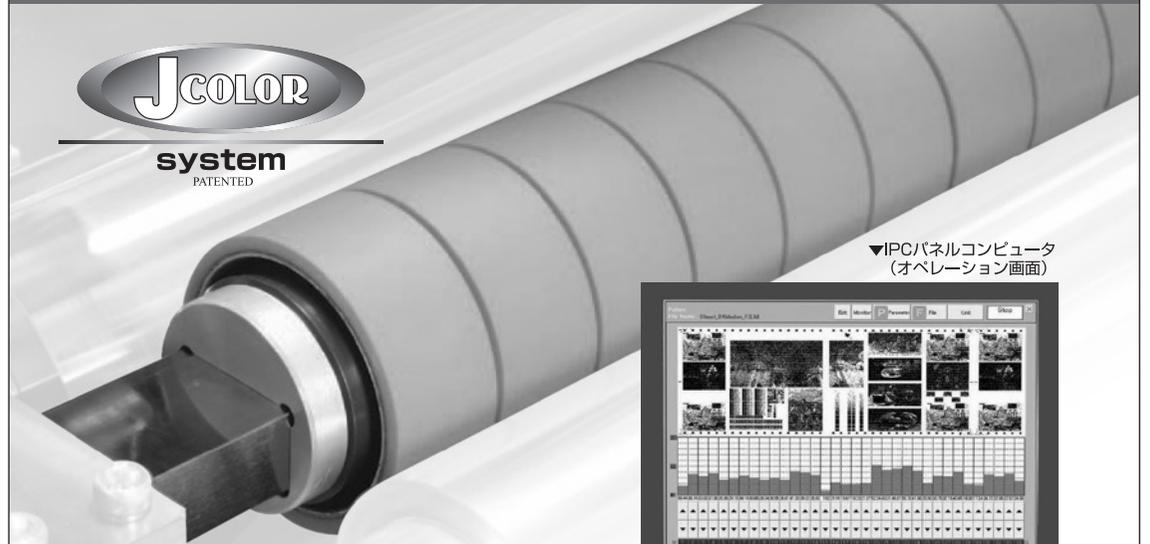
インキ部門 **フォーム印刷部門** **コンピューターサプライ部門**



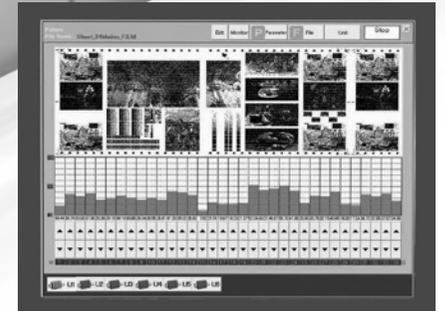
本社・工場	大阪府高槻市上土室 6-17-1	〒569-1044	電話0726(95)2921(代)
東京支店	東京都千代田区飯田橋 3-11-14	〒102-0072	電話03(3263)2331(代)
福岡営業所	福岡市博多区半道橋 1-5-36	〒812-0897	電話092(472)5731(代)
仙台営業所	仙台市宮城野区高砂 1-24-15	〒983-0014	電話022(254)6021(代)
関東久喜工場	埼玉県久喜市清久町 2-7	〒346-0035	電話0480(23)6363(代)
宇治田原工場	京都府綴喜郡宇治田原町工業団地	〒610-0231	電話07748(8)4711(代)

コスト削減・高品質

ビジネスフォーム印刷に最適!! 《環境配慮型システム》



▼IPCパネルコンピュータ
(オペレーション画面)

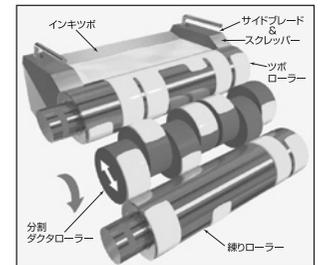


※刷版データとインキ量グラフを同時に表示。オペレーターが操作しやすくなっています。

IPC <インキプリセットコントロール>

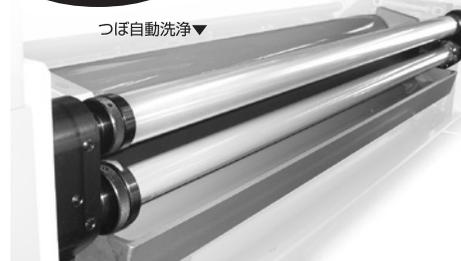
★メリット

- ◎分割ダクタローラーは正確なインキ量供給により、色調、立ち上がりが向上。
- ◎低速から高速への速度追従機能により、濃度安定・ヤレ削減を実現。
- ◎極小絵柄でも色品質が安定し、インキ乳化を抑制。
- ◎つぼネジ調整一切不要→時間短縮・生産効率UP。



▲分割ダクタローラー機構
(呼び出しローラー)

AFC <オートファンテッククリーニング>



- インキつぼをカバーフィルムで覆い、自動フィルム巻取機能による洗浄システム。

★メリット

- ◎12色機の場合、インキつぼ&つぼローラを同時に洗浄、約3分で洗浄完了。

IPC・AFC 国内外特許取得

※類似品にご注意下さい。

アイマー・プランニング株式会社
〒612-8207 京都市伏見区横大路三栖山城屋敷町108

TEL.075-603-3878 FAX.075-603-3877
URL http://www.imer.jp E-mail: sec@imer.jp

